

待っている人がいる幸せ

2022/04/14



バスの運転手さんは幸せです

今日のNHKの講座には、自分の車ではなく、バスで行きました。最近、バスを使う機会が増えました。今日も、バスに乗りながら、「歳をとったら、バスの運転手さんがいいなあ」と思いました。きっと、だれかが待っていてくれるからです。待っていてくれる人がいることほど、幸せなことはありません。バスが停車場へ着くと、「はい、お待ちどうさまでした」と言いながらドアを開けます。バスを待っていたお客さまが乗ってきます。それが、きれいな若い女の人なら、むろん、嬉しいですが、杖を突いたご老人ならなおさら嬉しいです。この方たちは、バスがないとお困りになられる方ばかりです。そういった方から頼りにされることほど、嬉しいことはありません。みなさん、ホッとした顔をして乗ってきます。あまり、怒った顔をして乗ってくる方はいません。もしいたとしたら、税務署へ税金を納めに行く方でしょう。

デートは待つのも待たれるのも楽しい

今日の講座も、30名の方が私を待っていて下さいました。多くの方が、私を待っていて下さるのはとても嬉しいことです。期待し、楽しみにして、待

っていて下さるのです。デートが、嬉しくて楽しいのは、待っていてくれる人がいるからです。でも、デートは、待たれるのも、待つのも楽しいです。野球で、ピッチャーとして投げるのが楽しいか、バッターとして打つのが楽しいか。寿司屋さんで、握るのが楽しいか、食べるのが楽しいか。ゴルフで、ドライバーでガチンと打つのが楽しいか、パターでコロンと入れるのが楽しいか — ウ〜ン、困りましたね。今日は、早く帰ろう。女房が待っている。

今週は不思議な週

今週は不思議な週で、同じ週にNHKの木曜講座があり、二日後に土曜講座があります。木曜講座は第2週と第4週の木曜日です。土曜講座は第1週と第3週の土曜日です。それでも、第2週の木曜日と第3週の土曜日が同じ週になりました。不思議です。それは、この4月が金曜日から始まったからです。別に、不思議でもなんでもありません。

1600年に三大舞台芸術がそろって上演

今日の第1回木曜講座は、モンテヴェルディ(1567-1643)の歌劇《オルフェオ》でした。これは1607年にイタリアのマントヴァのパラッツォ・ドゥカーレ宮廷で、「アカデーミア・デリ・インヴァアギーティ」(熱狂者たちのアカデミー)の会員たちの前で初演されました。オペラが出来たのが1600年のフィレンツェだと言われていいますから、この《オルフェオ》がそのわずか7年後に初演されたのは驚くべきことです。現在のオペラが有している機構のすべてが、すでに、このモンテヴェルディの《オルフェオ》の中にあります。主人公たちのソロあり、重唱あり、合唱あり、オーケストラの全奏あり、アンサンブルもあり、バレエあり、衣装あり、装置ありのなんでもありでした。また、イギリスのロンドンでは、1601年ごろにはシェイクスピア(1564-1616)が戯曲『ハムレット』を自前の劇場グローブ座で上演しています。日本では、出雲阿国(いずものおくに: 1572- 没年不明)が慶長5年(1600)に京都で「ややこ踊り」を舞い始め、慶長8年(1603)に「かぶき踊」となりました。これが歌舞伎の始まりです。1600年、イタリアとイギリスと日本で、そろって舞台芸術が花開いたことになります。奇跡です。それぞれの国で、こういった舞台芸術を観る階級の人たちがいて、劇場(日本ではまだ神社の境内など)があって、それを上演するプロデューサーとパトロンがいたことになります。それぞれの国で、経済と政治と社会が、安定していたことでしょう。

オペラポリタン名古屋

名古屋を「オペラポリタン」にするには、どうしたらいいのでしょうか？ 政治(行政)でしょうか、経済(スポンサー)でしょうか、プロデューサー(劇場)でしょうか、社会(コミュニティー)でしょうか？ 「コミュニティー」は大丈夫です。立派に育っています。

都築正道